

糖尿病教室ブログ

みなさん、こんにちは。

今回は糖尿病患者様を在宅で介護されているご家族にアンケートをとらせていただきました。

在宅での介護に対する、ご家族の思いなど貴重なご意見を伺い、今現在介護をされている方や今から介護を始めようとされる方へ、少しでも参考になるのではないかとこの思いからアンケートをさせていただきました。ご多忙の中、アンケートにご協力していただいたご家族の方々には本当に感謝しております。ありがとうございました。

さて、アンケートの内容ですが一つ一つ読ませていただき、在宅介護の実態やご家族の大変さなどが伝わってきました。

文面だけでは、十分な理解は得られないのですが、どのご家族も在宅介護をする中で多かれ少なかれ大変な思いをされている事は理解することができました。

アンケート内容から推察すると、入院中の生活と退院後の生活に大きなギャップがあり、それゆえ退院してからの生活にスムーズに戻れないのではないかと考えます。

そのためには、入院中に退院後の生活環境を視野にいれた生活指導をさせていただくことが必須ではないかと考えます。

お薬の飲み方ひとつとっても、一袋にまとめたほうがいいのか、砕いて用意をしたほうが飲みやすいのか、その人にとって何がベストな方法なのかを考えていくことが必要であると思います。

在宅介護の現状は日々厳しいものになりつつあります。

老々介護という言葉をご存じでしょうか？

介護を受けている方が高齢であればあるほど、その配偶者の方やお子さんが介護をされているパターンが多いため、必然的に介護者も高齢になるというわけです。

現に今回のアンケート結果にも80代の年齢層が大幅に多いことがわかりました。

介護の現状はこのように逼迫しているなか、少しでも介護者の負担を軽

減できるような働きかけを提案することも、病院で働く我々の仕事ではないかと感じています。

例えば、デイケアや訪問リハビリ、宅食などの福祉サービスを十分に利用しながら生活することで、介護者に時間の余裕ができます。

そのような時間を有効活用し、普段できないことなど自分のために時間を使ってもらおう。

そうすることで介護によるストレスや疲れを少しでも緩和できるのではないかと感じました。

入院中に十分な生活指導を行っていくためには、医師や看護師、栄養士、理学療法士、薬剤師やケアマネージャー、医療相談員などの多職種も含め、「その人らしさ」を考慮し、様々な観点から取り組む必要があります。日々のケアの中で出来る限りの情報を収集し、時にはご家族からお話を伺ったりすることで「その人らしさ」を追求したものに繋がっていくのではないのでしょうか？

私たちもまだまだ未熟な面もありますが、少しでも「その人らしさ」を考えたケアができるよう日々精進していきたいと考えております。

今期の糖尿病教室はこれで終了となります。

また4月からも1階外来掲示板には皆様のお役に立てる情報を掲載させていただきます。外来に来られた際にはぜひご覧ください。

いつも、ブログや掲示板をご覧いただき、ありがとうございます。

来季も昨年同様にコロナ渦でありますので、教室開催は中止となります。早くコロナが終息し、1日でも早く皆様をお迎えできる日がくることをスタッフ一同願っております。

糖尿病教室 スタッフ一同